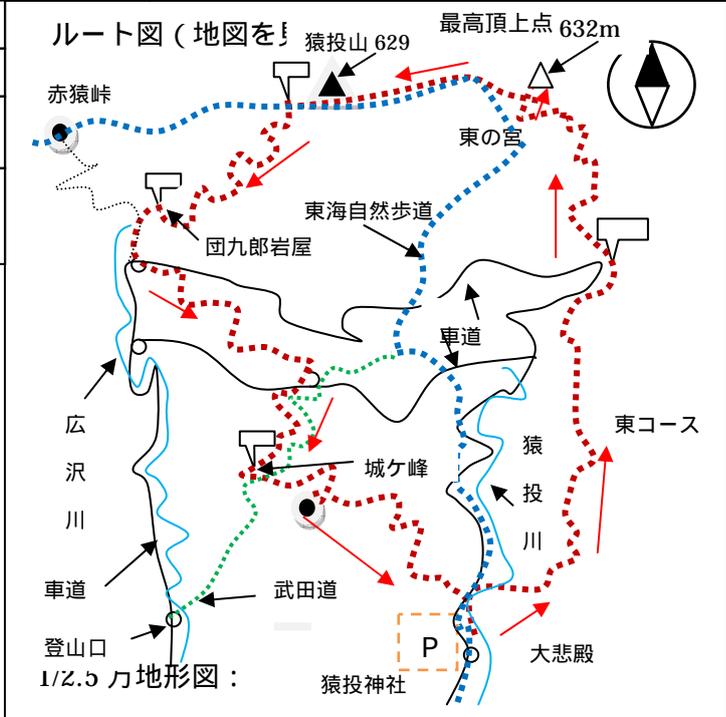


3 月度 例会 個人 山行報告書		報告者	油井 武	参加 メンバー	CL:塚本英吾 SL:青山 武(たけし) 油井 武(たける)
		報告日	3 / 1 0		
山 域	愛知県豊田市	山行日	*2012/ 3 / 7 日 (水)		
山 名	猿投山				

山行目的	早春の猿投山を新ルートで楽しむ	コースタイム (天候: 天気図記号)
------	-----------------	--------------------

配布先  
総会参加数  
山行: 1  
リーダー  
原紙:  
会事務局



\* 3 / 7 (水) くもり  
刈谷発 6 : 30 ~ 猿投神社 P 7:30  
駐車場発 7:40 ~ 東尾根コース取り付き 7:47  
地蔵沢コースとの分岐カンパン 8:21  
岩 (鬼のざぶとん岩) 9:02 掘割コース分岐 9:06  
車道に出る 9:10 アセビ枝道に入る 9:11  
大木数本の西分岐 9:43 御舟石 9:56  
東の宮 10:03~10:15 (小休憩)  
頂上三角点 10:20 気温 6 ALT632m  
蛙岩 10:30 猿投山ビューポイント 629m  
分岐 (東大保有林カンパン) 10:50 小屋跡コースへ入  
団九郎の岩屋 11:35 休憩 11:50 武田道出合い 12:44  
武田道城が峰頂上 13:20 / 380m / 12  
木の幹に赤い矢印 13:20  
車道 (模範展示林の杭) 14:05  
猿投神社駐車場 14:10  
竜寺の湯 豊田浄水店 14:51~16:30  
刈谷着 17:30

山行報告 猿投の新案内図を入手し、早速未踏の東コースを試してみたくなり、雨間をぬって刈谷を6時半に出発した。気温は11と温かいが、一日中曇天。現地猿投神社Pへ1時間で到着、身支度、体操の後出発。大悲殿を過ぎ猿投川を渡る手前で右折し林道へと入る。7分後看板はないが東コースの尾根に取り付くと踏み跡が現れた。暫くして地蔵沢コースへの分岐に到達し看板を右に見て通り過ぎる。出発から1時間で橋が沢コースへの分岐 (看板) を過ぎる。風も無く静かな照葉樹林の中を進むと、鷲のおぼつかない鳴き初めらしき声を聞く。一坪くらいの岩があり仮に「鬼の座布団」と勝手に命名する。掘割コースとの分岐を過ぎると車道に出る。1台の車が路肩に駐車してあり、その反対側に踏み跡を見つけ、アセビの枝に赤布の目印を巻き前に進む。大木数本のある小ピークを西に進むと分岐がある。椎、檜、樺が多いが、この辺りまで竹林が迫っておりその勢いがやがて他の植物を席卷するのではないかと憂慮。御舟石を過ぎると7分で東の宮に到着。参拝。一本。旅行社のツアー客十数人が、ガイドに案内され東海自然歩道を往くのを見送り、我々はやしらの裏手から、当山最高頂上を目指す。約5分で到着するも見晴らし優れず次へ進む。蛙岩を過ぎ猿投山のビューポイントに着く。町は見えるがあいにく曇っていて中央アルプスや恵那山は望めない。帰り道は東京大学保有林看板を、左に折れて、**踏み跡が水で流されV溝になった尾根筋**を下り団九郎岩屋へ出てそこで昼食をとる。車道を

12分下ったところで再びそま路に入る。やがて武田道に合流し南下すると、城ヶ峰山頂に到着。そこからは城ヶ峰コースをたどり、二つ目のピークに出ると、城塞跡の看板があり、その土地の研究者による説明書きには、城主不明なるも、一説には鈴木なにがしとあった。そこから約15分東進すると、今朝スタートした近くの車道に出て猿投川を渡ると駐車場であった。一日中曇っていたが、風の無い穏やかな6時間半の早

リーダー所見 穏やかな天候に恵まれ・東コースは初めて歩いたが、人は少なく静かで、整備され歩きやすかったので、余裕のある素晴らしい山旅をすることができた。この山は数多くの尾根筋があり、まだ未踏破の沢山の登山コースがあるので、これからも楽しみである。また帰りには、竜泉寺の湯へ立ち寄り、岩盤浴とセットのいい湯で汗を流し、最後は安全運転で安全登山を締めくくることができた。これもひとえに関係者のサポートのお陰と感謝の念に堪えない。

《フリースペース》

確認 (リーダー)  
塚  
3/10  
本  
作成 (報告者)  
油  
3/10  
井